

日本地震学会の活動(2012~2024)

年度	研究発表会・講演会等の開催		学会誌・その他の刊行物の発行		研究の奨励及び研究業績の表彰		内外の関連学術団体との協力連絡	その他	特記事項
	学術講演会	一般講演会、講習会等	学会誌	その他	表彰	海外渡航助成			
2012(H24)	<p>日本地球惑星科学連合2012年大会(千葉)</p> <p>日本地震学会2012年度秋季大会(函館)</p>	<p>一般公開セミナー「北海道の将来の地震・津波に備えて～東日本大震災の教訓に学ぶ」(函館)</p> <p>第12回講習会「強震動予測—その基礎と応用」(東京:34名)</p> <p>教員サマースクール「地震・津波を学校でどう教えるか～三陸地方の地球科学的特徴と理科教育～」(気仙沼市・陸前高田市・大船渡市・釜石市:34名)</p> <p>教員免許状更新講習(全国10か所:118名)</p> <p>第13回地震火山子どもサマースクール「東と西に引き裂かれた大地のナゾ」(糸魚川:33名)</p>	<p>学会誌「地震」第65巻(第65巻1号には2011年東北地方太平洋沖地震の特集を掲載)</p> <p>欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第64巻4～12号および第65巻1～3号(東北地方太平洋沖地震の特集号の第二段として刊行した「The 2011 Tohoku Earthquake」は、プレプリント段階からオープンアクセスとして公開)</p>	<p>会員情報誌「(社)日本地震学会ニュースレター」第24巻</p> <p>広報紙「なみふる」No.89～No.92</p> <p>「日本地震学会メールニュース」No.35～No.46</p>	<p>論文賞(3編)</p> <p>若手学術奨励賞(3名)</p> <p>学生優秀発表賞(8名)</p>	<p>6名(うち3名はASC渡航助成)</p>	<p>共催(6件)協賛(9件)後援(11件)</p> <p>ASC2012参加者への渡航助成(3名)</p> <p>ASCへの役員の推薦および選任</p> <p>日本ジオパーク推進活動の支援</p>	<p>ホームページの管理・運営</p> <p>なみふるメールマガジン(nfm)の運用</p> <p>記者懇談会・説明会(2回)</p> <p>地震学FAQ</p> <p>パンフレット作製</p> <p>社会活動基金に関わる活動として地震災害後の被災地・被災者のために社会活動を行うための資料作りや、被災地での住民セミナーについてWGを設置</p> <p>スマトラ沖地震・津波への対応—国際メールマガジンの廃止</p>	<p>2012年12月1日 公益社団法人となる</p>
2013(H25)	<p>日本地球惑星科学連合2013年大会(千葉)</p> <p>日本地震学会2013年度秋季大会(横浜)</p>	<p>一般公開セミナー「神奈川・横浜の備え～関東大震災から90年」(横浜:350名)</p> <p>第13回講習会「強震動予測—その基礎と応用」(東京:31名)</p> <p>教員サマースクール「中越・上越の地震・防災・ジオパークと教育～中越地震被災地と糸魚川ジオパーク～」(長岡市:19名)</p> <p>教員免許状更新講習(全国8か所:57名)</p> <p>第14回地震火山子どもサマースクール「南から来た大地のものがたり」(下田市・南伊豆町:33名)</p> <p>若手育成企画「地震学夏の学校」(つくば:46名)</p> <p>関東地震90周年記念シンポジウム—過去に学び、未来に備える—(東京:290名)</p>	<p>学会誌「地震」第66巻</p> <p>欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第65巻4～12号および第66巻1～3号</p>	<p>会員情報誌「(社)日本地震学会ニュースレター」第25巻</p> <p>広報紙「なみふる」No.93～No.96</p> <p>「日本地震学会メールニュース」No.47～No.58</p> <p>日本地震学会モノグラフ第2号「ブループリント」50周年地震研究の歩みと今後」の発行</p>	<p>論文賞(3編)</p> <p>若手学術奨励賞(3名)</p> <p>学生優秀発表賞(8名)</p>	<p>9名</p>	<p>IASPEI総会・セッション報告をニュースレターに掲載</p> <p>日本地震学会との会長懇談会を開催</p> <p>共催(5件)協賛(7件)後援(13件)協力(1件)</p> <p>IASPEI参加者への渡航助成(3名)</p> <p>米国地震学会(SSA)と共催で、米国地震学会春季大会での合同セッション「Great Earthquakes and Slip to the Trench」の企画準備</p> <p>日本ジオパーク推進活動の支援およびJCG委員に1名推薦および選任</p>	<p>ホームページのリニューアル(会員専用ページの開設等)・管理・運営</p> <p>なみふるメールマガジン(nfm)の運用</p> <p>記者懇談会・説明会(2回)</p> <p>地震学FAQ</p>	<p>関東地震から90年ということで、日本地震学会・歴史地震研究会と合同で特別シンポジウムを開催した</p>
2014(H26)	<p>日本地球惑星科学連合2014年大会(横浜)</p> <p>日本地震学会2014年度秋季大会(新潟)</p>	<p>一般公開セミナー「過去から学び将来へ伝える」(新潟:150名)</p> <p>第14回講習会「強震動予測—その基礎と応用」(東京:67名)</p> <p>教員サマースクール「大地の裂け目に湧き出る恵みと災い～阿蘇火山～」(阿蘇市:17名)</p> <p>教員免許状更新講習(全国9か所:87名)</p> <p>第15回地震火山子どもサマースクール「島原半島に隠された九州のヒミツ」(島原市:21名)</p> <p>若手育成企画「地震学夏の学校」(岩手:68名)</p> <p>ジオパークガイド勉強会「東北地方太平洋沖地震に関して「分かってきたこと、分かったこと、分からないこと」(宮古市、大船渡市:57名)</p> <p>地震被害の軽減に向けた研究者たちのメッセージ—阪神・淡路大震災20年:地震関連科学の到達点と新たな決意—(神戸市:132名)</p>	<p>学会誌「地震」第67巻</p> <p>欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第66巻4～12号および第67巻1～3号</p>	<p>会員情報誌「(社)日本地震学会ニュースレター」第26巻</p> <p>広報紙「なみふる」No.97～No.100</p> <p>「日本地震学会メールニュース」No.59～No.70</p> <p>日本地震学会モノグラフ第3号「日本の原子力発電と地球科学」の発行</p>	<p>論文賞(3編)</p> <p>若手学術奨励賞(3名)</p> <p>学生優秀発表賞(7名)</p>	<p>5名(うち2名はASC渡航助成)</p>	<p>ASC総会について、参加者への渡航助成を行ったほか、総会・セッションについて学会ニュースレターに掲載</p> <p>IASPEI総会に大会招聘状を発送し2017年神戸大会を招致、セッション報告をニュースレターに掲載</p> <p>米国地震学会(SSA)春季大会では、SSAと共催での合同セッション「Great Earthquakes and Slip to the Trench」を開催</p> <p>日本地震学会との会長懇談会を開催</p> <p>地震学会のジオパークワーキンググループの活動として、秋季大会の後に糸魚川世界ジオパークを地元事務局の支援を受けて巡検を行う</p> <p>共催(4件)協賛(9件)後援(10件)</p>	<p>ホームページの管理・運営</p> <p>なみふるメールマガジン(nfm)の運用</p> <p>記者懇談会・説明会(2回)</p> <p>地震学FAQ</p>	<p>兵庫県南部地震から20年ということで、日本地震学会・日本活断層学会と合同でシンポジウムを開催した</p>
2015(H27)	<p>日本地球惑星科学連合2015年大会(千葉)</p> <p>日本地震学会2015年度秋季大会(神戸)</p>	<p>一般公開セミナー「地震研究は防災に活かされているか?—阪神・淡路大震災から20年間に実現したことと残された課題—」(神戸:140名)</p> <p>「地震の教室」(神戸:30名)</p> <p>第15回講習会「強震動予測—その基礎と応用」(東京:35名)</p> <p>教員サマースクール「石碑や海岸の地形から学ぶ関東地方を襲った大地震」(館山市・南房総市:17名)</p> <p>教員免許状更新講習(全国12か所:160名)</p> <p>第16回地震火山子どもサマースクール「南アルプス、まぐれあがった大地と中央構造線のナゾ」(南アルプス市:26名)</p> <p>若手育成企画「地震学夏の学校2015」(横浜市・横須賀市:40名)</p> <p>ジオパークガイド研修会:栗駒山麓ジオパーク推進講演会(栗原市:100名)</p> <p>ジオパークガイド研修会:日本地震学会・三陸ジオパーク推進協議会共催「ガイド研修会」(気仙沼市:32名)</p>	<p>学会誌「地震」第68巻</p> <p>欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第67巻4～12号および第68巻1～3号</p>	<p>会員情報誌「(社)日本地震学会ニュースレター」は「地震(ニュースレター部)」として学会誌「地震」に統合。第68巻NL1号～NL6号</p> <p>広報紙「なみふる」No.101～No.104</p> <p>「日本地震学会メールニュース」No.71～No.82</p> <p>日本地震学会モノグラフ第4号「学校・社会教育による地震知識の普及—教育を通じた地震災害軽減の現状と課題—」の研究者と小・中・高等学校教員との連携—」の発行</p>	<p>論文賞(2編)</p> <p>若手学術奨励賞(3名)</p> <p>学生優秀発表賞(8名)</p>	<p>3名</p>	<p>IASPEI総会2017年神戸大会の組織委員会を立ち上げ準備を開始</p> <p>日本地震学会との会長懇談会を開催</p> <p>防災学術連携体が発足され、地震学会も参加</p> <p>日本ジオパーク推進活動の支援として「日本ジオパーク委員会」に理事1名が参加</p> <p>共催(5件)協賛(6件)後援(11件)</p>	<p>ホームページの管理・運営</p> <p>なみふるメールマガジン(nfm)の運用</p> <p>記者懇談会・説明会(2回)</p> <p>地震学FAQ</p>	<p>社会活動基金に基づく活動として三陸ジオパーク推進協議会と共同し、震災語り部やガイドに対する研修会を平成26年7月に宮古市および大船渡市で開催した。</p>

2016(H28)	<p>日本地球惑星科学連合2016年大会(千葉) 日本地震学会2016年度秋季大会(名古屋)</p>	<p>一般公開セミナー「海洋底から巨大地震に迫る」(名古屋市:108名) 「地震の教室(教員向け・親子向け)」(名古屋市:40名) 第16回講習会「強震動予測—その基礎と応用」(東京:36名) 教員サマースクール『和歌山県紀の川周辺の地形』と『県内の災害史』から学ぶ地震・津波防災(和歌山市・紀の川市・広川町:14名) 教員免許状更新講習(全国10か所:140名) 第17回地震火山子どもサマースクールin南紀熊野ジオパーク(熊本市町周辺:38名) 若手育成企画「地震学夏の学校2016」(京都市:34名) 平成28年熊本地震 住民地震セミナー(阿蘇市:150名) 昭和南海地震70周年シンポジウム(高知市:170名)</p>	<p>学会誌「地震」第69巻 欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第68巻 4~12号および第69巻1~3号</p>	<p>地震(ニュースレター部)第69巻NL1号~NL6号 広報紙「なみふる」No.105~No.108 「日本地震学会メールニュース」No.83~No.94</p>	<p>日本地震学会賞(1名) 論文賞(3編) 若手学術奨励賞(3名) 技術開発賞(1件) 学生優秀発表賞(8名)</p>	<p>6名(うち1名はASC渡航助成)</p>	<p>IASPEI総会2017年神戸大会の準備 メルボルンで開催されたASC総会の開催援助(ASC助成金) 日本地震工学会との会長懇談会を開催 日本ジオパーク推進活動の支援として日本ジオパーク支援委員会を設立 防災学術連携体の活動として連携体主催する報告会等に講演者を立て、地震に関する情報の提供に携わった 共催(4件)協賛(8件)後援(11件)</p>	<p>ホームページの管理・運営 なみふるメールマガジン(nfm)の運用 記者懇談会・説明会(2回) 地震学FAQ ホームページの管理・運営 なみふるメールマガジン(nfm)の運用 記者懇談会・説明会(2回) 地震学FAQ(2017年11月1日から気象庁において「南海トラフ地震」に関する情報の運用を開始され、「東海地震関連情報」の発表を行わなくなったことから、本学会ホームページ内の記述内容を一部改訂・削除</p>	<p>社会活動基金に基づく活動として平成28年熊本地震 住民地震セミナーを阿蘇市で開催 理事会主催「南海トラフ巨大地震:予測可能性シンポジウムと防災対応WG」に関する説明会を秋季大会会期中に開催 日本地震工学会と共催で高知工科大学で昭和南海地震70周年シンポジウムを開始 2016年度から日本地震学会賞、技術開発賞を新設 ジオパーク支援委員会の設立</p>
2017(H29)	<p>日本地球惑星科学連合2017年大会(千葉) 日本地震学会2017年度秋季大会(鹿児島)</p>	<p>一般公開セミナー「鹿児島の地震津波防災を考える—過去の災害に学ぶ—」(鹿児島市:70名) 「地震の教室(教員向け・親子向け)」(鹿児島市:33名) 国際測地学協会及び国際地震学・地球内部物理学協会合同学術総会(IASPEI2017神戸市:1107名、64カ国/地域から参加) 市民公開講座「変動する地球を追い求めて—測地学、地震学の最前線—」(日本学術会議・日本測地学会共催、神戸市:90名) 第17回講習会「強震動予測—その基礎と応用」(東京:56名) 教員サマースクール「地震、火山、防災—長野県西部地震(1984年)と御嶽山の噴火から学ぶ—」(木曾町・大滝村:10名) 教員免許状更新講習(全国12か所:155名) 第18回地震火山子どもサマースクールin益城町(益城町:28名) 若手育成企画「地震学夏の学校2017」(札幌市:51名) 平成28年熊本地震 住民地震セミナー(益城町) 防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2017 団体別セッション(仙台市) シンポジウム「地震発生予測と大震法および地震防災研究」(東京:107名)</p>	<p>学会誌「地震」第70巻 欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第69巻 4~12号および第70巻1~3号</p>	<p>地震(ニュースレター部)第70巻NL1号~NL6号 広報紙「なみふる」No.109~No.112 「日本地震学会メールニュース」No.95~No.106 「日本地震学会モノグラフ」第5号『地震発生予測と大震法および地震防災研究』の発行</p>	<p>日本地震学会賞(1名) 論文賞(3編) 若手学術奨励賞(3名) 技術開発賞(1件) 学生優秀発表賞(8名)</p>	<p>5名</p>	<p>日本学術会議・日本測地学会とともに2017年7月30日~8月4日にIAG-IASPEI合同学術総会を主催 日本地震工学会との会長懇談会を開催 日本ジオパーク委員会に委員を派遣(中川) 防災学術連携体の活動として連携体主催する報告会等に講演者を立て、地震に関する情報の提供に携わった 共催(6件)協賛(7件)後援(8件)</p>	<p>ホームページの管理・運営 なみふるメールマガジン(nfm)の運用 記者懇談会・説明会(2回) 地震学FAQ(2017年11月1日から気象庁において「南海トラフ地震」に関する情報の運用を開始され、「東海地震関連情報」の発表を行わなくなったことから、本学会ホームページ内の記述内容を一部改訂・削除</p>	<p>社会活動基金に基づく活動として2017年8月に熊本県益城町で、活断層学会との共催で、平成28年熊本地震についての住民セミナーを開催。11月27日に仙台国際センターで開かれた防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2017で、「地震研究最前線、いま何が分かって何が伝えられるのか、まだ何が分かっていないのか」と題したセミナーを行った。 構成員を理事とするタスクフォースを組織し、学会の今後の財務経営についても提案をまとめた 「地震発生予測と大震法および地震防災研究」に関するシンポジウムを開催し、モノグラフ5号としてまとめた</p>
2018(H30)	<p>日本地球惑星科学連合2018年大会(千葉) 日本地震学会2018年度秋季大会(郡山)</p>	<p>第15回日本地震工学シンポジウムの共同開催(仙台市) 一般公開セミナー「基大な地震津波被害を繰り返さないために「私たちが出来ること」」(郡山市:70名) 「地震の教室(教員向け・親子向け)」(郡山市:27名) 第18回講習会「強震動予測—その基礎と応用」(東京:57名) 教員サマースクール「自然との共存—山体崩壊と象潟地震による隆起および景勝—」(秋田県にかほ市:10名) 教員免許状更新講習(全国11か所:145名) 第19回地震火山子どもサマースクールin伊豆大島(伊豆大島:34名) 若手育成企画「地震学夏の学校2018」(浜松市:30名) 防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2018 セッションプログラム(東京) ジオパーク専門員対象地震学講習会「ジオパーク活動で使える地震学2」(千葉市:25名)</p>	<p>学会誌「地震」第71巻 欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第70巻 4~12号および第71巻1~3号</p>	<p>地震(ニュースレター部)第71巻NL1号~NL6号 広報紙「なみふる」No.113~No.116 「日本地震学会メールニュース」No.107~No.118</p>	<p>日本地震学会賞(0名) 論文賞(3編) 若手学術奨励賞(3名) 技術開発賞(0件) 学生優秀発表賞(8名)</p>	<p>5名</p>	<p>中国・成都で開催されたASC(アジア地震学会)にASC基金から援助し、会長以下数名が参加した 2019年7月に開催されるIUGG総会に関してEarly Career Scientist Awardの候補者を推薦し、辻健会員が選出された 日本地震工学会との会長懇談会を開催 日本ジオパーク委員会に委員を派遣(中川) 防災学術連携体の活動として日本学術会議公開シンポジウム/第6回防災学術連携シンポジウム「あなたが知りたい防災科学の最前線 首都直下地震に備える」において講演者を立て、地震に関する情報の提供に携わった 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会へ参加 理学・工学系学協会連絡協議会へ参加 共催(6件)協賛(9件)後援(11件)</p>	<p>ホームページの管理・運営 なみふるメールマガジン(nfm)の運用 記者懇談会・説明会(2回) 地震学FAQ(「東海地震」という項目を「南海トラフ地震」に変更し、関連する記述の修正を施して公開)</p>	<p>社会活動基金に基づく活動として2018年8月に熊本県益城町で、活断層学会との共催で、平成28年熊本地震についての住民セミナーを開催。11月27日に仙台国際センターで開かれた防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2017で、「地震研究最前線、いま何が分かって何が伝えられるのか、まだ何が分かっていないのか」と題したセミナーを行った。 構成員を理事とするタスクフォースを組織し、学会の今後の財務経営についても提案をまとめた 「地震発生予測と大震法および地震防災研究」に関するシンポジウムを開催し、モノグラフ5号としてまとめた</p>

2019(H31-R1)	<p>日本地球惑星科学連合2019年大会(千葉)</p> <p>日本地震学会2019年度秋季大会(京都)*日本地震工学会との連携(大会日程の連続)</p> <p>一般公開セミナー「平成の大被害地震を振り返る」(京都市:130名)</p> <p>「地震の教室(教員向け・親子向け)」(京都市:28名)</p> <p>第19回講習会「強震動予測—その基礎と応用」(東京:57名)</p> <p>教員サマースクール「跡津川断層と神岡山—地球の息吹を探る」(飛騨市から富山市・立山町)にかかる地域:14名)</p> <p>教員免許状更新講習(全国10か所:104名)</p> <p>第20回地震火山こどもサマースクールinTANGO(京都府丹後地域:20名)</p> <p>若手育成企画「地震学夏の学校2019 in 阿蘇」(阿蘇市:35名)</p> <p>防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2019参加(東京)</p> <p>「粟島地震セミナー 山形県沖の地震—これまでの研究で分かっていたこと、地震で分かっていたこと、分からないこと」(新潟県・粟島:120名)</p> <p>ジオパーク専門員対象地震学講習会「ジオパーク活動で使える地震学3」(千葉市:19名)</p> <p>第1回特別シンポジウム「内閣府『南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応のあり方』について」報告を知る」(千葉:77名)</p> <p>第2回特別シンポジウム「南海トラフ地震臨時情報:科学的データや知見の活用」(京都:114名)</p>	<p>学会誌「地震」第72巻</p> <p>欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第71巻 4~12号および第72巻1~3号</p>	<p>地震(ニュースレター部)第72巻NL1号~NL6号</p> <p>広報紙「なみふる」No.117~No.120</p> <p>「日本地震学会メールニュース」No.119~No.130</p> <p>モノグラフ第6号「南海トラフ地震臨時情報:科学的データや知見の活用」の発行</p>	<p>日本地震学会賞(1名)</p> <p>論文賞(3編)</p> <p>若手学術奨励賞(3名)</p> <p>技術開発賞(2件)</p> <p>学生優秀発表賞(8名)</p>	<p>9名(うち4名はIASPEI関連事業基金渡航助成)</p>	<p>IUGG執行役員(佐竹健治:2019-2023)</p> <p>IASPEI会長(佐竹健治:2019-2023)</p> <p>カナダ・モントリオールで開催された第27回IUGG総会に日本の代表を派遣</p> <p>日本地震工学会との会長懇談会を開催</p> <p>日本ジオパーク委員会)内の認定審査を担当する調査運営部会に委員を派遣(中川)</p> <p>防災学術連携体の活動として日本学術会議公開シンポジウム/第9回防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」において講演者を立て、地震に関する情報の提供に携わった</p> <p>福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会へ参加</p> <p>理学・工学系学協会連絡協議会へ参加</p> <p>共催(2件)・協賛(7件)・後援(11件)・協力(1件)</p>	<p>ホームページの管理・運営</p> <p>なみふるメールマガジン(nfm)の運用</p> <p>記者懇談会・説明会(2回)</p> <p>地震学FAQ</p> <p>将来検討ワーキンググループを組織し、年度内に2回会合を開催した。検討結果は、理事会上に報告するとともに、ニュースレターに投稿した</p>	<p>秋季大会において、公益社団法人日本地震工学会との合同特別セッションとして「長期地震動—その生成から構造物の応答、社会の対応まで—」(南海トラフ巨大地震(基調講演:パネルディスカッション))を開催</p>
2020(R2)	<p>JpGU-AGU Joint Meeting 2020(オンライン)</p> <p>日本地震学会2020年度秋季大会(オンライン)</p> <p>一般公開セミナー「島弧のジオダイナミクス—琉球弧における地震研究の発展」(オンライン:308名)</p> <p>「地震の教室(教員向け・親子向け)」埼玉県高等学校理化学研究会地学研究委員会地学研究大会に参加し地震の教室お教材を発表(春日部市)</p> <p>教員ウィンターミーティング(オンライン:21名)</p> <p>教員免許状更新講習(全国3か所:24名)</p> <p>若手育成企画「地震学夏の学校2020」(オンライン:43名)</p> <p>防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2020 ワークショップ何でも聞いてみよう、中国地方の地震活動のこれまでとこれから:地震学会住民セミナー(オンライン)</p> <p>ジオパーク専門員対象地震学講習会「ジオパーク活動で使える地震学4」(オンライン:62名)</p>	<p>学会誌「地震」第73巻</p> <p>欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第72巻 4~12号および第73巻1~3号</p>	<p>地震(ニュースレター部)第73巻NL1号~NL6号</p> <p>広報紙「なみふる」No.121~No.124</p> <p>「日本地震学会メールニュース」No.131~No.142</p>	<p>日本地震学会賞(0名)</p> <p>論文賞(3編)</p> <p>若手学術奨励賞(3名)</p> <p>技術開発賞(0件)</p> <p>学生優秀発表賞(5名)</p>	<p>0名(新型コロナウイルス感染症の影響により、公募事態を中止)</p>	<p>IUGG執行役員(佐竹健治:2019-2023)</p> <p>IASPEI会長(佐竹健治:2019-2023)</p> <p>日本地震工学会との会長懇談会を開催</p> <p>ジオパーク・コンソーシアムの設立準備会議に委員を派遣(中川)</p> <p>防災学術連携体の活動として日本学術会議公開シンポジウム/第11回防災学術連携シンポジウム「この10年における日本地震学会の取組と地震研究の進捗」において講演者を立て、地震に関する情報の提供に携わった</p> <p>福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会へ参加</p> <p>理学・工学系学協会連絡協議会へ参加</p> <p>共催(2件)・協賛(4件)・後援(10件)</p>	<p>ホームページの管理・運営</p> <p>なみふるメールマガジン(nfm)の運用</p> <p>記者懇談会・記者説明会(1回)</p> <p>地震学FAQ</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により事業の中止や開催方式の変更を行った</p>
2021(R3)	<p>日本地球惑星科学連合2021年大会(オンライン)</p> <p>日本地震学会2021年度秋季大会(オンライン)</p> <p>一般公開セミナー「東北地方太平洋沖地震10年と地震研究」(オンライン:300名)</p> <p>「強震動予測—その基礎と応用」講習会(オンライン:47名)</p> <p>教員ウィンターミーティング(オンライン:30名)</p> <p>教員免許状更新講習(全国4か所:20名)</p> <p>若手育成企画「地震学夏の学校2021」(オンライン:58名)</p> <p>防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2021 地震学会セッション 地域防災の担い手やジオガイドが徹底質問「地震のこと、語れるまで教えて」—どこまで分かった東北地方太平洋沖地震、何が分かってない 日本海溝・千島海溝や南海トラフの地震(オンライン:150名)</p> <p>ジオパーク専門員対象地震学講習会「ジオパーク活動で使える地震学5:『ジオパーク』×『活断層』」(オンライン:50名)</p>	<p>学会誌「地震」第74巻</p> <p>欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第73巻 4~12号および第74巻1~3号</p>	<p>地震(ニュースレター部)第74巻NL1号~NL6号</p> <p>広報紙「なみふる」No.125~No.128</p> <p>「日本地震学会メールニュース」No.143~No.154</p>	<p>日本地震学会賞(1名)</p> <p>論文賞(3編)</p> <p>若手学術奨励賞(3名)</p> <p>技術開発賞(0件)</p> <p>学生優秀発表賞(3名)</p>	<p>2名(うち1名はオンライン参加に対する助成)</p>	<p>IUGG執行役員(佐竹健治:2019-2023)</p> <p>IASPEI会長(佐竹健治:2019-2023)</p> <p>日本地震工学会との会長懇談会を開催</p> <p>日本ジオパーク学術支援連合(JGASU)が7月に発足、委員を派遣(中川)</p> <p>「防災学術連携体」の団体会員として総会・連絡会・研究会に出席し、防災減災・災害復興に関する他学協会との連携を推進</p> <p>福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会へ参加</p> <p>理学・工学系学協会連絡協議会へ参加</p> <p>地学オリンピックへの協力</p> <p>共催(0件)・協賛(8件)・後援(11件)</p>	<p>ホームページの管理・運営</p> <p>なみふるメールマガジン(nfm)の運用</p> <p>記者懇談会・記者説明会(2回)</p> <p>地震学FAQ</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により当初の計画内容を変更せざるを得ないところもあったが、オンラインツールを活用するなど、可能な限り計画に沿って事業を実施</p>

2022(R4)	<p>日本地球惑星科学連合2022年大会（幕張メッセ及びオンラインのハイブリッド） 日本地震学会2022年度秋季大会（札幌市）</p> <p>一般公開セミナー「北海道の大地震と大津波」（札幌：127名） 特別シンポジウム「大地震発生！「1週間程度は注意」の次は？～後発地震と臨時情報（オンライン）」 特別シンポジウム「等身大の地震学」をどう防災に役立てるのか？～確率論的地震ハザード評価とシナリオ型地震被害想定とその活用（オンライン） 「強震動予測—その基礎と応用」講習会（東京およびオンライン：65名） 教員サマースクール2022「妖怪の足音きくらべ—地震計をもって境港と溶岩の島をあぐる〜」（境港市・松江市：10名） 地震火山地質子どもサマースクール in 浅間山北麓ジオパーク（浅間山北麓ジオパーク：24名） 若手育成企画「地震学夏の学校2022」（仙台：50名） 防災推進国民大会（ぼうさいこくたい2022 地震学会セッション 兵庫県南部地震とはどういふ地震？ 関西の内陸地震についてはどこまで分かった？ いまでも何が分からない？ 皆さんの疑問に徹底的に答えませう（神戸：30名） ジオパーク専門員対象地震学講習会「ジオパーク活動で使える地震学 6：決定的地震予知から確率論的地震予測への道のり」（オンライン：50名）</p>	<p>学会誌「地震」第75巻 欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第74巻 4～12号および第75巻1～3号</p>	<p>地震（ニュースレター部）第75巻NL1号～NL6号 広報紙「なみふる」No.129～No.132 「日本地震学会メールニュース」No.155～No.166</p>	<p>日本地震学会賞（1名） 論文賞（3編） 若手学術奨励賞（3名） 技術開発賞（0件） 学生優秀発表賞（5名）</p>		<p>IUGG執行役員（佐竹健治：2019-2023） IASPEI会長（佐竹健治：2019-2023） 日本地震工学会との会長懇談会を開催 日本ジオパーク学術支援連合（JGASU）に委員を派遣（中川） 第16回日本地震工学シンポジウム運営委員会に委員を派遣（室谷） 「防災学術連携体」の団体会員として総会・連絡会・研究会に出席し、防災減災・災害復興に関する他学協会との連携を推進 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会へ参加 理学・工学系学協会連絡協議会へ参加 地学オリンピックへの協力 共催（0件）協賛（8件）後援（9件）</p>	<p>ホームページの管理・運営 なみふるメールマガジン（nfm）の運用 記者懇談会（2回） 地震学FAQ 会長声明：日本地震学会の能登半島地震への対応について（2024年1月12日）を发出</p>	
2023(R5)	<p>日本地球惑星科学連合2023年大会（幕張メッセ及びオンラインのハイブリッド） 日本地震学会2023年度秋季大会（横浜市）</p> <p>一般公開セミナー「関東大震災から100年—過去を学び、将来に生かす」（横浜：121名）日本地震工学会と共催 特別シンポジウム「地震学」は自治体や消防の現場にどう使えるか—南海トラフや首都直下の対策現場から開く研究最前線（東京およびオンライン） 強震動予測—その基礎と応用」講習会（東京およびオンライン：72名） 教員サマースクール2023「伊豆半島—丹那断層や地震観測点を通る〜」（小田原市・熱海市：18名） 地震の教室（横浜：約155名、親子連れ12組） 地震火山地質子どもサマースクール in 平塚（平塚市：37名） 若手育成企画「地震学夏の学校2023」（つくば：39名） ぼうさいこくたい2023 イグナイトセッション 学会発表によるショートプレゼンテーション「地震を研究しつつ、成果を社会や子どもたちとも共有しています」（横浜） 地震住民セミナー「最新科学で知る多様な南海トラフ巨大地震～助かる可能性をあきらめない〜」（海陽町） ジオパーク専門員対象地震学講習会「ジオパーク活動で使える地震学7：日本海形成から見た日本海側の地震について」（オンライン：50名） ジオパーク巡検（箱根ジオパーク：24名） 第16回日本地震工学シンポジウム（16JEESS）（共催：横浜）オーガナイズドセッション「海溝型巨大地震の予測情報をめぐる防災対策とリスクコミュニケーション—「わかりにくさ」に向き合う」を企画 東京国際消防防災展 2023への特別協力（東京） 「地震学会 & 第22回地震火山地質子どもサマースクールイベントフォーラム」国立科学博物館（東京） オンライン談話会 4回の開催（2024年1月1日に発生した能登半島地震に関して）</p>	<p>学会誌「地震」第76巻（特集：1923年大正関東地震9編を含む） 欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第75巻 4～12号および第76巻1～3号</p>	<p>地震（ニュースレター部）第76巻NL1号～NL6号 広報紙「なみふる」No.133～No.136 「日本地震学会メールニュース」No.167～No.178 2022年度・2023年度の特別シンポジウム等による活動成果を中心にモノグラフ第7号の編集作業を進めた</p>	<p>日本地震学会賞（1名） 論文賞（3編） 若手学術奨励賞（3名） 技術開発賞（3件） 学生優秀発表賞（9名）</p>	<p>5名（うち2名はIASPEI関連事業基金助成）</p>	<p>IUGG執行役員（佐竹健治：2019-2023） IASPEI会長（佐竹健治：2019-2023） IASPEI執行役員（Past President）（佐竹健治：2023-2027） アジア地震学会第1副会長（大久保慎人：2023-2027?） 日本地震工学会との会長懇談会を開催 第16回日本地震工学シンポジウムにて主催12学会の会長懇談会を開催 日本ジオパーク学術支援連合（JGASU）に委員を派遣（中川） 「防災学術連携体」の団体会員として総会・連絡会・研究会に出席し、防災減災・災害復興に関する他学協会との連携を推進 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会へ参加 理学・工学系学協会連絡協議会へ参加 地学オリンピックへの協力 地震火山地質子どもサマースクール開催のための3学会の協力 米国地震学会（SSA）との特別研究会「Physics-Based Ground Motion Modeling」の共催（カナダ） 共催（0件）協賛（6件）後援（10件）協力（2件）</p>	<p>ホームページの管理・運営 なみふるメールマガジン（nfm）の運用 記者懇談会（2回） 地震学FAQ 会長声明：日本地震学会の能登半島地震への対応について（2024年1月12日）を发出</p>	<p>関東大震災から100年に関わる各種イベントの開催および協力を行った 令和6年能登半島地震への対応として会長声明の发出のほか、オンライン談話会を開催した</p>

2024(R6)	<p>日本地球惑星科学連合2024年大会（幕張メッセ及びオンラインのハイブリッド） 日本地震学会2024年度秋季大会（新潟市）</p>	<p>一般公開セミナー「新潟から神戸にかけておこる被害地震に迫るー2024年能登半島地震から考えるー」（新潟：109名）</p> <p>徳島大学・日本地震学会 特別シンポジウム「最新科学で備える南海トラフ地震」（徳島およびオンライン：260名）</p> <p>強震動予測ーその基礎と応用」講習会（東京およびオンライン：70名）</p> <p>教員サマースクール2024「平成7年（1995年）兵庫県南部地震による災害のその後と今後の大地震への備え in Osaka」（大阪市：21名）</p> <p>地震の教室（新潟：約60名）</p> <p>第23回地震火山地質子どもサマースクール吉野川大会（三好ジオパーク構想エリア及びその周辺地域：28名）</p> <p>若手育成企画「地震学夏の学校2024」（京都：50名）</p> <p>ほうさいこくたい2024 in 熊本 日本地震学会セッション「2016年熊本地震はどんな地震だった？何が分かって、分かかってないの？専門家に根拠を振り聞いてみよう」（熊本）</p> <p>ジオパーク地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学8：日本列島の大地形の成因について」（オンライン：約50名）</p> <p>ジオパーク巡検（佐渡ジオパーク：17名）</p>	<p>学会誌「地震」第77巻 欧文学術誌「Earth, Planets and Space」第76巻 4～12号および第77巻1～3号</p>	<p>地震（ニュースレター部）第77巻NL1号～NL6号 広報誌「なみふる」No.137～No.140 「日本地震学会メールニュース」No.179～No.190 モノグラフ第7号「等身大の地震学をどう社会に役立てるか」公開</p>	<p>日本地震学会賞（1名） 論文賞（3編） 若手学術奨励賞（3名） 技術開発賞（2件） 学生優秀発表賞（10名）</p>	3名	<p>IASPEI執行役員（Past President）（佐竹健治 2023-2027） アジア地震学会第1副会長（大久保慎人、2023-2027?） 日本地震工学会との会長懇談会を開催 「防災学術連携体」の団体会員として総会・連絡会・研究会に出席し、防災減災・災害復興に関する他学協会との連携を推進 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会へ参加 理学・工学系学協会連絡協議会へ参加 地学オリンピックへの協力 地震火山地質子どもサマースクール開催のための3学会の協力 共催（0件）協賛（6件）後援（9件）</p>	<p>ホームページの管理・運営（北海道・三陸沖後発地震注意情報への対応計画をWEB掲載） なみふるメールマガジン（nfm）の運用 記者懇談会（2回） 地震学FAQ</p>
----------	---	---	---	---	---	----	--	---